



Hyper-V を使用した ASA の導入

Microsoft Hyper-V を使用して ASA を導入できます。

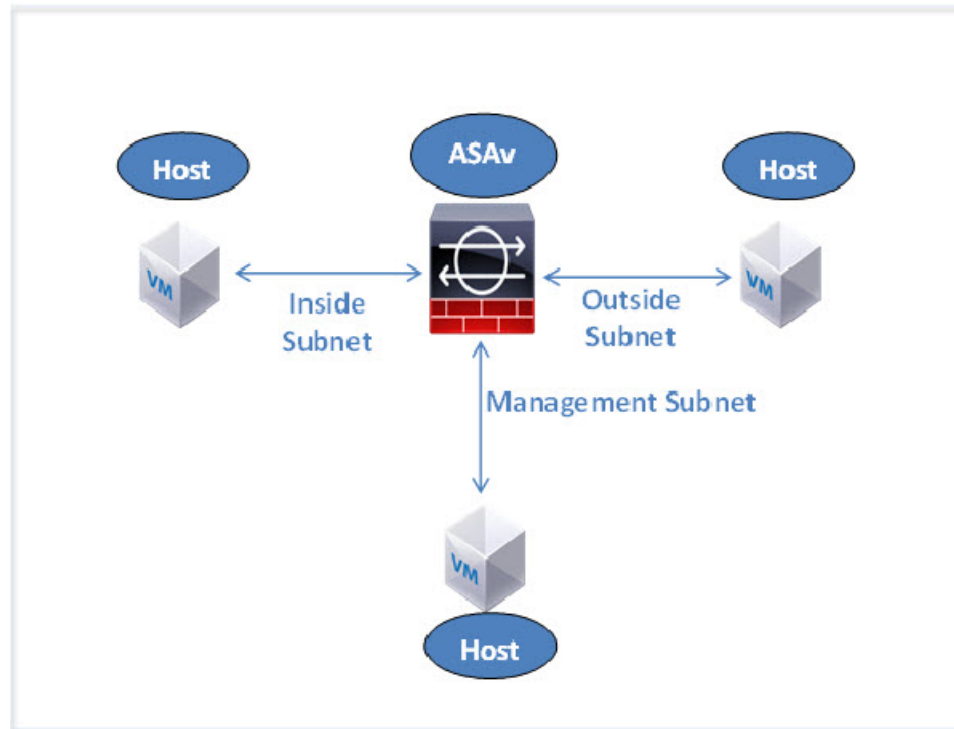
- [Hyper-V を使用した ASA の導入について \(1 ページ\)](#)
- [ASA および Hyper-V のガイドラインと制限事項 \(2 ページ\)](#)
- [ASA と Hyper-V の前提条件 \(3 ページ\)](#)
- [第 0 日のコンフィギュレーション ファイルの準備 \(4 ページ\)](#)
- [Hyper-V マネージャを使用した ASA と第 0 日用コンフィギュレーション ファイルの導入 \(6 ページ\)](#)
- [コマンドラインを使用した Hyper-V への ASA のインストール \(7 ページ\)](#)
- [Hyper-V マネージャを使用した Hyper-V への ASA のインストール \(8 ページ\)](#)
- [Hyper-V マネージャからのネットワーク アダプタの追加 \(15 ページ\)](#)
- [ネットワーク アダプタの名前の変更 \(17 ページ\)](#)
- [MAC アドレス スプーフィング \(18 ページ\)](#)
- [SSH の設定 \(19 ページ\)](#)

Hyper-V を使用した ASA の導入について

スタンドアロンの Hyper-V サーバ上に、または Hyper-V マネージャを介して Hyper-V を導入できます。Powershell CLI コマンドを使用したインストール手順については、「コマンドラインを使用した Hyper-V への ASA のインストール」の 46 ページを参照してください。Hyper-V マネージャを使用したインストール手順については、「Hyper-V マネージャを使用した Hyper-V への ASA のインストール」の 46 ページを参照してください。Hyper-V はシリアル コンソール オプションを提供していません。管理インターフェイスを介して SSH または ASDM を通じて Hyper-V を管理できます。SSH の設定については、「SSH の設定」の 54 ページを参照してください。

次の図は、ルーテッドファイアウォールモードでの ASA の推奨トポロジを示しています。ASA 向けに Hyper-V でセットアップされた、管理、内部、および外部の 3 つのサブネットがあります。

図 1: ルーテッドファイアウォールモードの ASA の推奨トポロジ



413440

ASA および Hyper-V のガイドラインと制限事項

- プラットフォーム サポート
 - Cisco UCS B シリーズ サーバ
 - Cisco UCS C シリーズ サーバ
 - Hewlett Packard Proliant DL160 Gen8
- サポートされる OS
 - Windows Server 2012
 - ネイティブ Hyper-V



(注) ASA は現在、仮想化に使用されている最新の 64 ビット高性能プラットフォームの大多数で稼働します。

- ファイル形式
 - Hyper-V への ASA の初期導入の場合は、VHDX 形式をサポートしています。

- 第 0 日用 (Day 0) 構成

必要な ASA CLI 設定コマンドを含むテキスト ファイルを作成します。手順については、「[第 0 日のコンフィギュレーション ファイルの準備](#)」を参照してください。

- 第 0 日用構成のファイアウォール トランスペアレント モード

設定行「firewall transparent」は、第 0 日用コンフィギュレーションファイルの先頭に配置する必要があります。ファイル内のそれ以外の場所にあると、異常な動作が起きる場合があります。手順については、「[第 0 日のコンフィギュレーションファイルの準備](#)」を参照してください。

- フェールオーバー

Hyper-V 上の ASA はアクティブ/スタンバイ フェールオーバーをサポートしています。ルーテッドモードとトランスペアレントモードの両方でアクティブ/スタンバイフェールオーバーを実行するには、すべての仮想ネットワーク アダプタで MAC アドレス スプーフィングを有効化する必要があります。「[MAC アドレス スプーフィングの設定](#)」の 53 ページを参照してください。スタンドアロン ASA のトランスペアレントモードの場合、管理インターフェイスの MAC アドレス スプーフィングは有効にしないでください。アクティブ/アクティブフェールオーバーはサポートされていません。

- Hyper-V は最大 8 つのインターフェイスをサポートします。Management 0/0 および GigabitEthernet 0/0 ~ 0/6。フェールオーバー リンクとして GigabitEthernet を使用できません。

- VLANs

トランクモードでインターフェイスに VLAN を設定するには、**Set-VMNetworkAdapterVLAN** Hyper-V Powershell コマンドを使用します。管理インターフェイスの NativeVlanID は、特定の VLAN として、または VLAN がいない場合は「0」として設定できます。トランクモードは、Hyper-V ホストをリブートした場合は保持されません。各リブート後に、トランクモードを再設定する必要があります。

- レガシー ネットワーク アダプタはサポートされていません。

- 第 2 世代仮想マシンはサポートされていません。

- Microsoft Azure はサポートされていません。

ASA と Hyper-V の前提条件

- MS Windows 2012 に Hyper-V をインストールします。

- 第 0 日用コンフィギュレーション テキスト ファイルを使用する場合は、それを作成します。

ASA の初回導入前に、第 0 日用構成を追加する必要があります。追加しない場合は、第 0 日用構成を使用するために、ASA から write erase を実行する必要があります。手順については、「[第 0 日のコンフィギュレーション ファイルの準備](#)」を参照してください。

- Cisco.com から ASA VHDX ファイルをダウンロードします。

<http://www.cisco.com/go/asa-software>



(注) Cisco.com のログインおよびシスコ サービス契約が必要です。

- Hyper-V スイッチには、3 つ以上のサブネット/VLAN が構成されます。
- Hyper-V システム要件については、『Cisco ASA Compatibility』を参照してください。

第 0 日のコンフィギュレーション ファイルの準備

ASAv を起動する前に、第 0 日 (Day 0) 用のコンフィギュレーション ファイルを準備できます。このファイルは、ASAv の起動時に適用される ASAv の設定を含むテキスト ファイルです。この初期設定は、「day0-config」というテキストファイルとして指定の作業ディレクトリに格納され、さらに day0.iso ファイルへと処理されます。この day0.iso ファイルが最初の起動時にマウントされて読み取られます。第 0 日用コンフィギュレーションファイルには、少なくとも、管理インターフェイスをアクティブ化するコマンドと、公開キー認証用 SSH サーバをセットアップするコマンドを含める必要がありますが、すべての ASA 設定を含めることもできます。day0.iso ファイル (カスタム day0 またはデフォルトの day0.iso) は、最初の起動中に使用できなければなりません。

始める前に

この例では Linux が使用されていますが、Windows の場合にも同様のユーティリティがあります。

- 初期導入時に自動的に ASAv をライセンス許諾するには、Cisco Smart Software Manager からダウンロードした Smart Licensing Identity (ID) トークンを「idtoken」というテキストファイルに格納し、第 0 日用コンフィギュレーションファイルと同じディレクトリに保存します。
- トランスペアレントモードで ASAv を導入する場合は、トランスペアレントモードで実行される既知の ASA コンフィギュレーションファイルを、第 0 日用コンフィギュレーションファイルとして使用する必要があります。これは、ルーテッドファイアウォールの第 0 日用コンフィギュレーションファイルには該当しません。
- ASAv の初回起動前に、第 0 日用コンフィギュレーションファイルを追加する必要があります。ASAv の初回起動後に第 0 日用コンフィギュレーションファイルを使用することにした場合は、**write erase** コマンドを実行し、第 0 日用コンフィギュレーションファイルを適用してから、ASAv を起動する必要があります。

ステップ 1 「day0-config」というテキストファイルに ASAv の CLI 設定を記入します。3 つのインターフェイスの設定とその他の必要な設定を追加します。

最初の行は ASA のバージョンで始める必要があります。day0-config は、有効な ASA 構成である必要があります。day0-config を生成する最適な方法は、既存の ASA または ASA v から実行コンフィギュレーションの必要な部分をコピーすることです。day0-config 内の行の順序は重要で、既存の show run コマンド出力の順序と一致している必要があります。

例：

```
ASA Version 9.5.1
!
interface management0/0
 nameif management
  security-level 100
  ip address 192.168.1.2 255.255.255.0
  no shutdown
interface gigabitethernet0/0
 nameif inside
  security-level 100
  ip address 10.1.1.2 255.255.255.0
  no shutdown
interface gigabitethernet0/1
 nameif outside
  security-level 0
  ip address 198.51.100.2 255.255.255.0
  no shutdown
http server enable
http 192.168.1.0 255.255.255.0 management
crypto key generate rsa modulus 1024
username AdminUser password paSSw0rd
ssh 192.168.1.0 255.255.255.0 management
aaa authentication ssh console LOCAL
```

ステップ 2 (任意) Cisco Smart Software Manager により発行された Smart License ID トークンファイルをコンピュータにダウンロードします。

ステップ 3 (任意) ダウンロードしたファイルから ID トークンをコピーし、ID トークンのみを含むテキストファイルを作成します。

ステップ 4 (任意) ASA v の初期導入時に自動的にライセンス許諾を行う場合は、day0-config ファイルに次の情報が含まれていることを確認してください。

- 管理インターフェイスの IP アドレス
- (任意) Smart Licensing で使用する HTTP プロキシ
- HTTP プロキシ (指定した場合) または tools.cisco.com への接続を有効にする route コマンド
- tools.cisco.com を IP アドレスに解決する DNS サーバ
- 要求する ASA v ライセンスを指定するための Smart Licensing の設定
- (任意) CSSM での ASA v の検索を容易にするための一意のホスト名

ステップ 5 テキストファイルを ISO ファイルに変換して仮想 CD-ROM を生成します。

```
stack@user-ubuntu:~/KvmAsa$ sudo genisoimage -r -o day0.iso day0-config idtoken
I: input-charset not specified, using utf-8 (detected in locale settings)
Total translation table size: 0
Total rockridge attributes bytes: 252
Total directory bytes: 0
Path table size (bytes): 10
```

```
Max brk space used 0
176 extents written (0 MB)
stack@user-ubuntu:~/KvmAsa$
```

この ID トークンによって、Smart Licensing サーバに ASA が自動的に登録されます。

ステップ 6 ステップ 1 から 5 を繰り返し、導入する ASA ごとに、適切な IP アドレスを含むデフォルトのコンフィギュレーション ファイルを作成します。

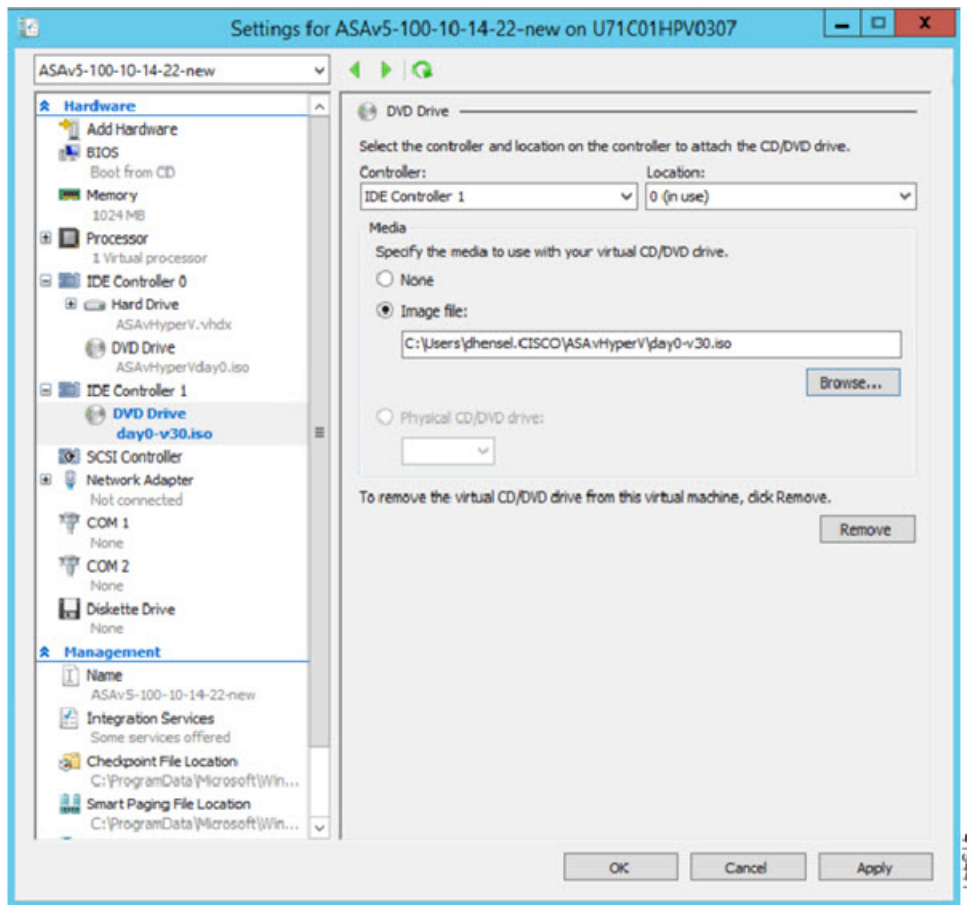
Hyper-V マネージャを使用した ASA と第 0 日用コンフィギュレーション ファイルの導入

第 0 日用コンフィギュレーション ファイルを設定したら（「[第 0 日のコンフィギュレーション ファイルの準備](#)」）、Hyper-V マネージャを使用して導入できます。

ステップ 1 [Server Manager] > [Tools] > [Hyper-V Manager] に移動します。

ステップ 2 Hyper-V マネージャの右側にある [Settings] をクリックします。[Settings] ダイアログボックスが開きます。左側の [Hardware] の下で、[IDE Controller 1] をクリックします。

図 2: Hyper-V マネージャ



ステップ 3 右側のペインの [Media] の下で、[Image file] のラジオ ボタンを選択して、第 0 日用 ISO コンフィギュレーションファイルを保存するディレクトリを参照し、[Apply] をクリックします。ASAv は、初回起動時に、第 0 日用コンフィギュレーションファイルの内容に基づいて構成されます。

コマンドラインを使用した Hyper-V への ASA のインストール

Windows Powershell コマンドラインを介して Hyper-V に ASA をインストールできます。スタンドアロンの Hyper-V サーバ上にいる場合は、コマンドラインを使用して Hyper-V をインストールする必要があります。

ステップ 1 Windows Powershell を開きます。

ステップ 2 ASA を導入します。

例 :

```
new-vm -name $fullVMName -MemoryStartupBytes $memorysize -Generation 1 -vhdpath  
C:\Users\jsmith.CISCO\ASAvHyperV\ImageName.vhdx -Verbose
```

ステップ 3 ASA のモデルに応じて、CPU 数をデフォルトの 1 から変更します。

例 :

```
set-vm -Name $fullVMName -ProcessorCount 4
```

ステップ 4 (任意) インターフェイス名をわかりやすい名前に変更します。

例 :

```
Get-VMNetworkAdapter -VMName $fullVMName -Name "Network Adapter" | Rename-vmNetworkAdapter -NewName  
mgmt
```

ステップ 5 (任意) ネットワークで必要な場合は、VLAN ID を変更します。

例 :

```
Set-VMNetworkAdapterVlan -VMName $fullVMName -VlanId 1151 -Access -VMNetworkAdapterName "mgmt"
```

ステップ 6 Hyper-V が変更を反映するように、インターフェイスを更新します。

例 :

```
Connect-VMNetworkAdapter -VMName $fullVMName -Name "mgmt" -SwitchName 1151mgmtswitch
```

ステップ 7 内部インターフェイスを追加します。

例 :

```
Add-VMNetworkAdapter -VMName $fullVMName -name "inside" -SwitchName 1151mgmtswitch  
Set-VMNetworkAdapterVlan -VMName $fullVMName -VlanId 1552 -Access -VMNetworkAdapterName "inside"
```

ステップ 8 外部インターフェイスを追加します。

例 :

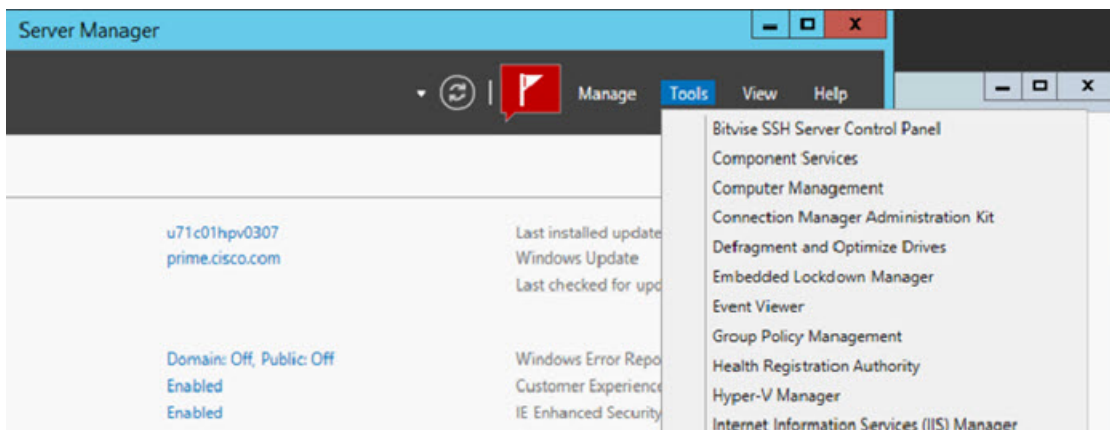
```
Add-VMNetworkAdapter -VMName $fullVMName -name "outside" -SwitchName 1151mgmtswitch  
Set-VMNetworkAdapterVlan -VMName $fullVMName -VlanId 1553 -Access -VMNetworkAdapterName "outside"
```

Hyper-V マネージャを使用した Hyper-V への ASA のインストール

Hyper-V マネージャを使用して、Hyper-V に ASA をインストールできます。

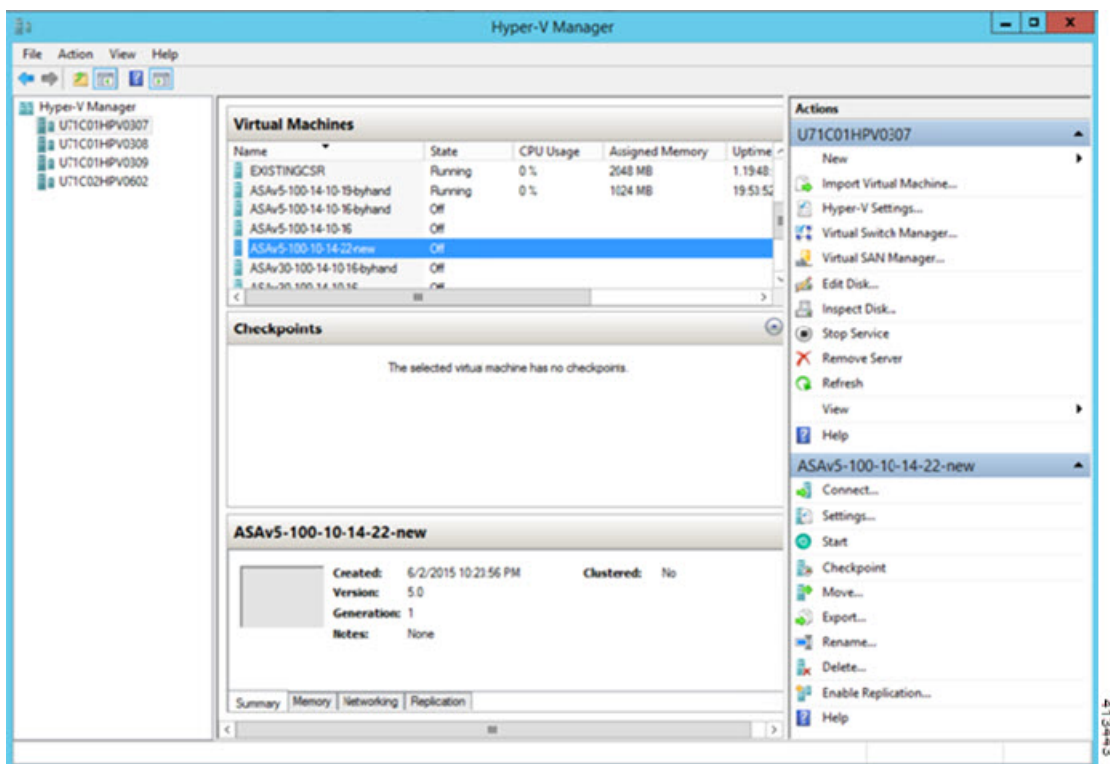
ステップ 1 [Server Manager] > [Tools] > [Hyper-V Manager] に移動します。

図 3: Server Manager



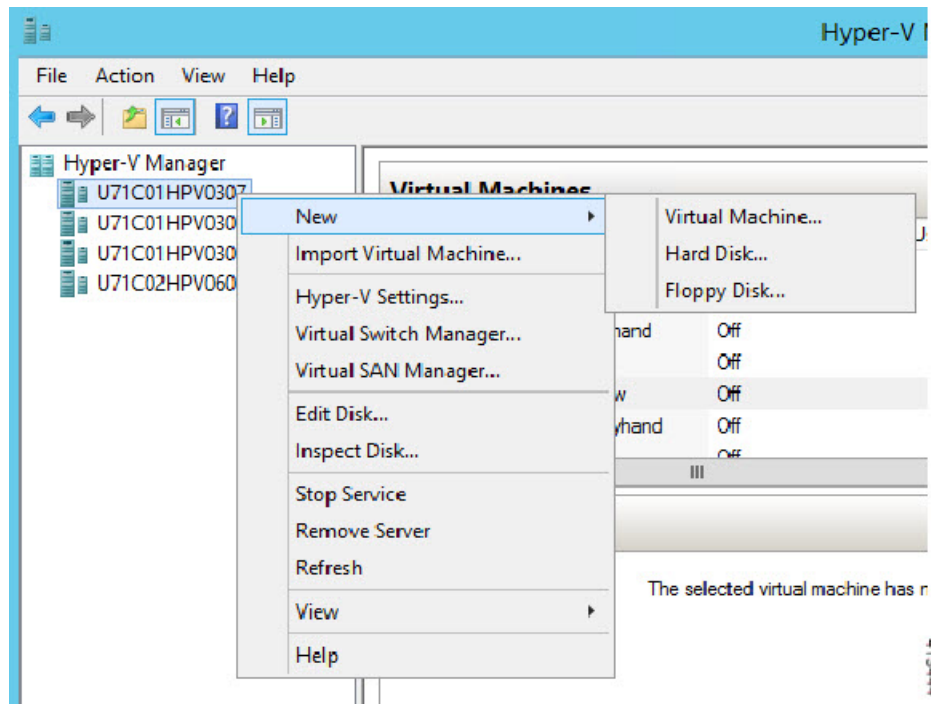
ステップ 2 Hyper-V マネージャが表示されます。

図 4: Hyper-V マネージャ



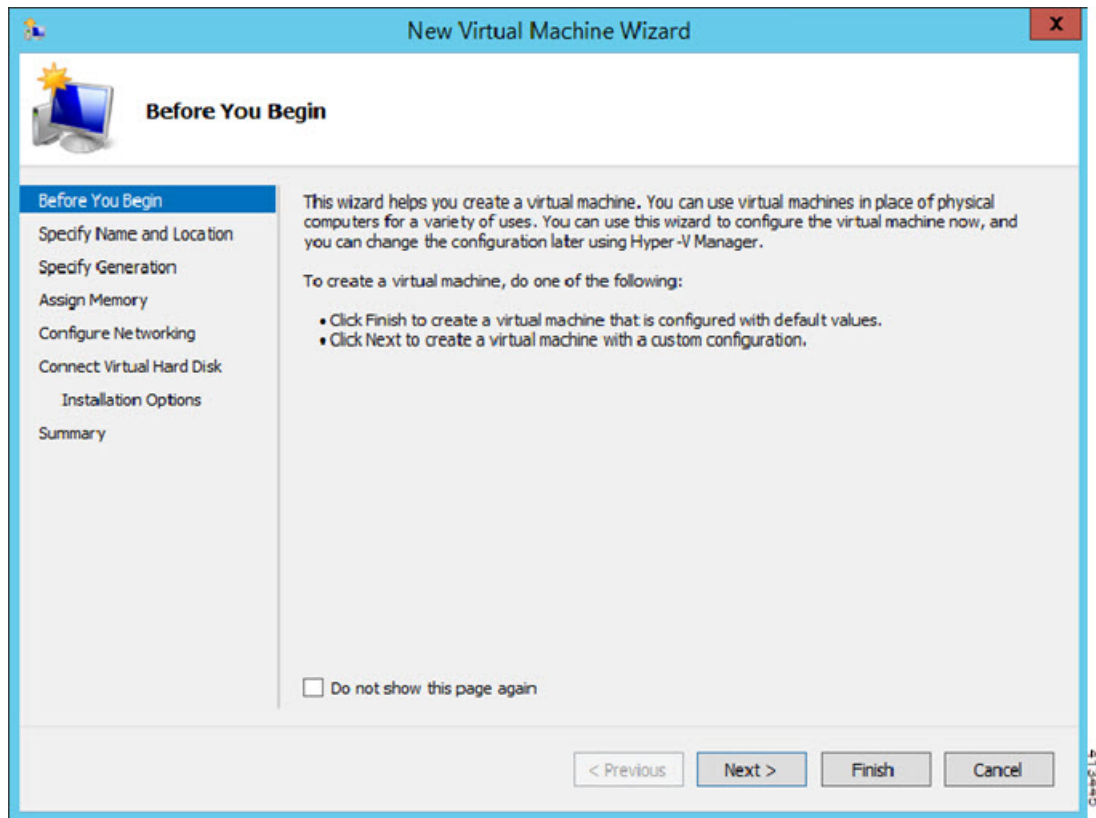
ステップ 3 右側のハイパーバイザのリストから、目的のハイパーバイザを右クリックし、[New] > [Virtual Machine] を選択します。

図 5: 新規仮想マシンの起動



ステップ 4 [New Virtual Machine] ウィザードが表示されます。

図 6 : [New Virtual Machine] ウィザード

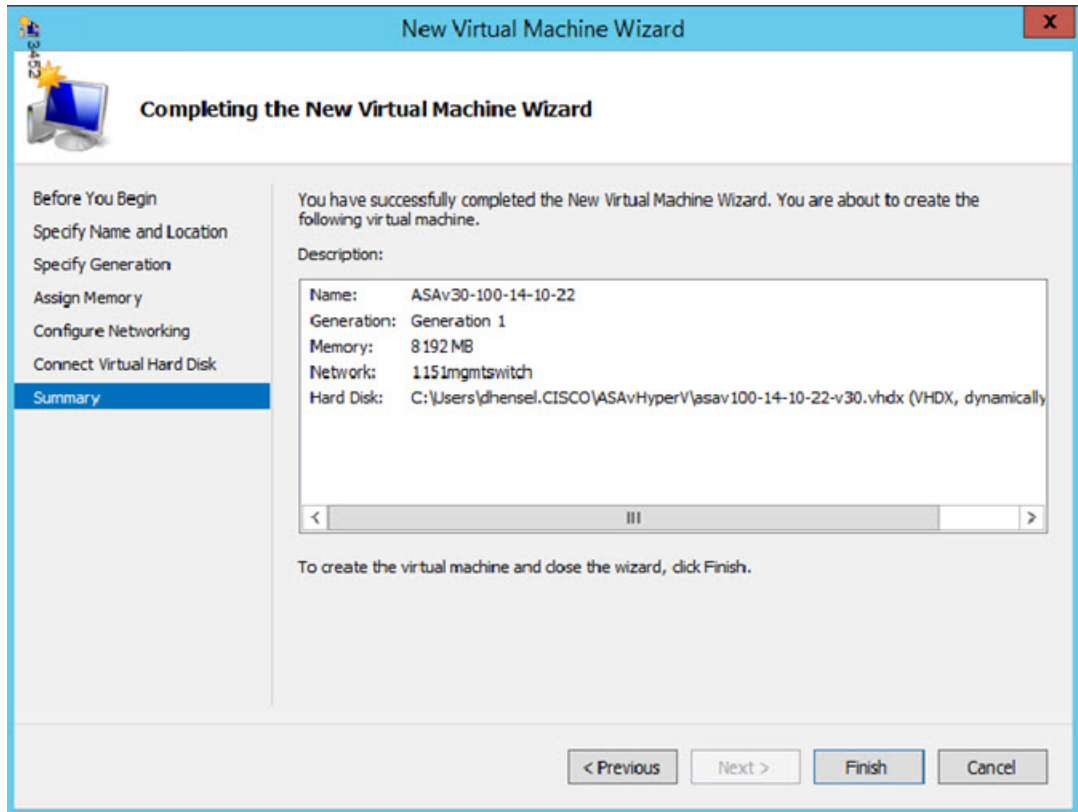


ステップ 5 ウィザードを通じて作業し、次の情報を指定します。

- ASA の名前と場所
- ASA の世代
ASA でサポートされている唯一の世代が [Generation 1] です。
- ASA のメモリ量 (ASA5 の場合は 1024 MB、ASA10 の場合は 2048 MB、ASA30 の場合は 8192 MB)
- ネットワーク アダプタ (セットアップ済みの仮想スイッチに接続)
- 仮想ハードディスクと場所
[Use an existing virtual hard disk] を選択し、VHDX ファイルの場所を参照します。

ステップ 6 [Finish] をクリックすると、ASA 構成を示すダイアログボックスが表示されます。

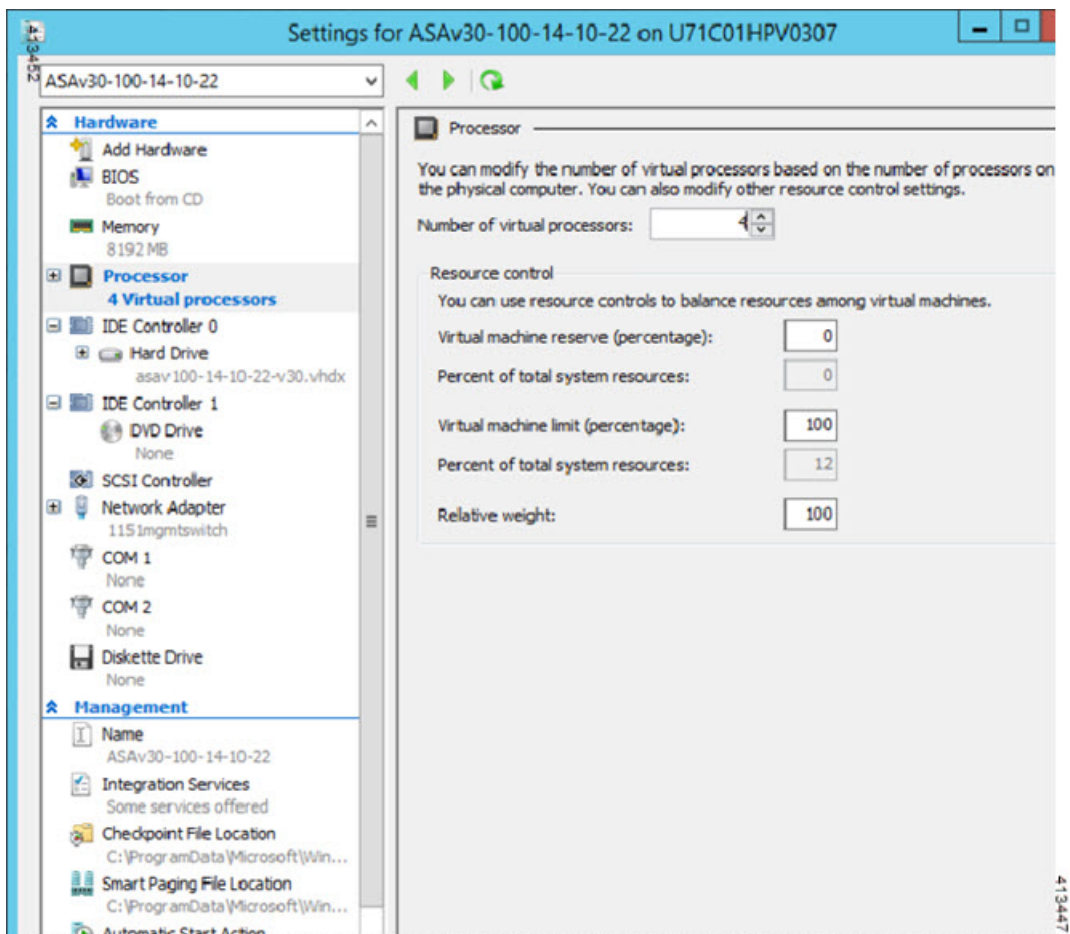
図 7: 新規仮想マシンの概要



ステップ 7 ASAv に 4 つの vCPU がある場合は、ASAv を起動する前に、vCPU 値を変更する必要があります。Hyper-V マネージャの右側にある [Settings] をクリックします。[Settings] ダイアログボックスが開きます。左側の [Hardware] メニューで、[Processor] をクリックし、[Processor] ペインを表示します。[Number of virtual processors] を 4 に変更します。

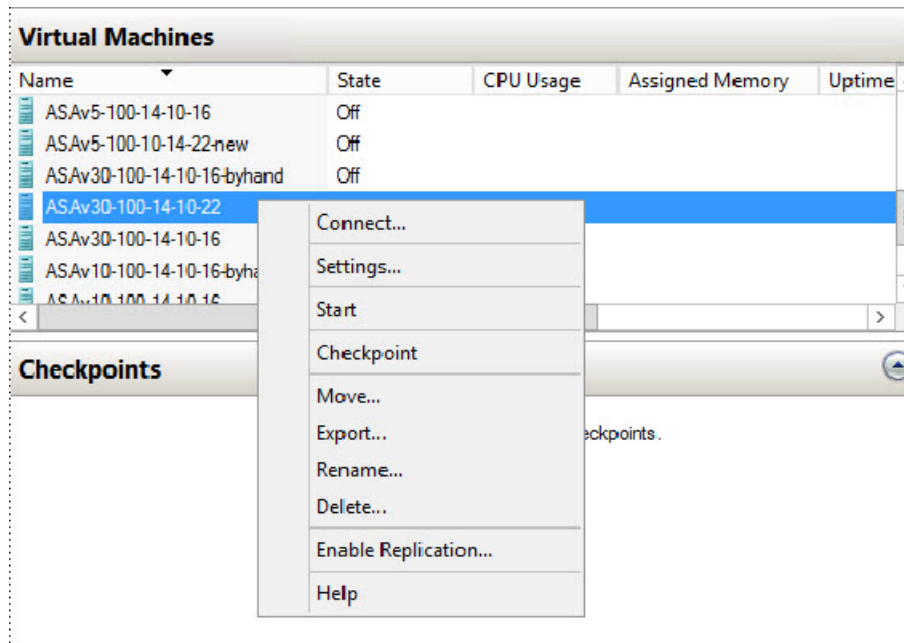
ASAv5 と ASAv10 には 1 つの vCPU があり、ASAv30 には 4 つの vCPU があります。デフォルトは 1 です。

図 8: 仮想マシンのプロセッサの設定



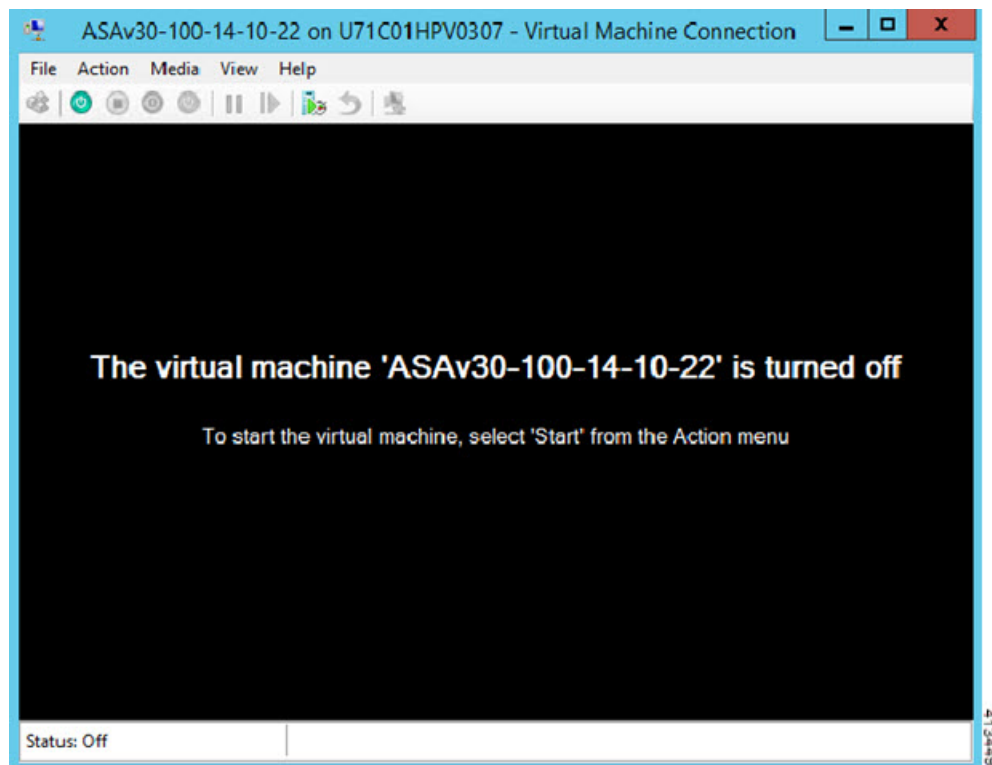
ステップ 8 [Virtual Machines] メニューで、リスト内の ASA の名前を右クリックし、[Connect] をクリックして、ASA に接続します。コンソールが開き、停止されている ASA が示されます。

図 9: 仮想マシンへの接続



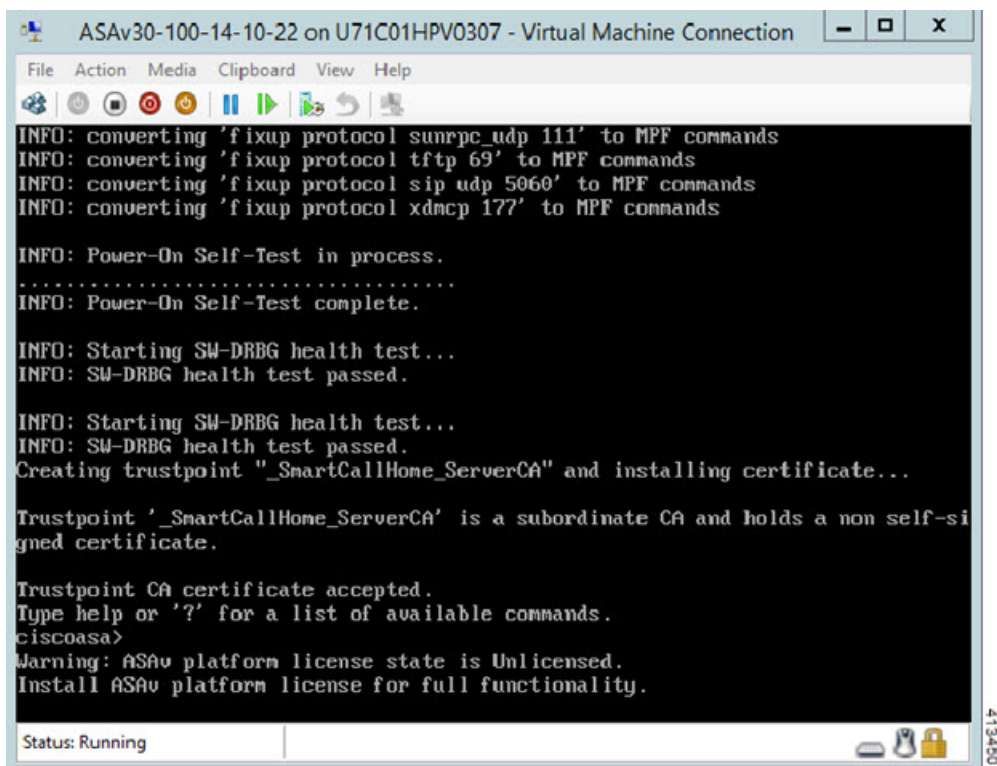
ステップ 9 [Virtual Machine Connection] コンソール ウィンドウで、青緑色の開始ボタンをクリックして、ASAv を起動します。

図 10: 仮想マシンの開始



ステップ 10 ASA の起動の進行状況がコンソールに表示されます。

図 11: 仮想マシンの起動の進行状況



```
ASAv30-100-14-10-22 on U71C01HPV0307 - Virtual Machine Connection
File Action Media Clipboard View Help
INFO: converting 'fixup protocol sunrpc udp 111' to MPF commands
INFO: converting 'fixup protocol tftp 69' to MPF commands
INFO: converting 'fixup protocol sip udp 5060' to MPF commands
INFO: converting 'fixup protocol xdncp 177' to MPF commands

INFO: Power-On Self-Test in process.
.....
INFO: Power-On Self-Test complete.

INFO: Starting SW-DRBG health test...
INFO: SW-DRBG health test passed.

INFO: Starting SW-DRBG health test...
INFO: SW-DRBG health test passed.
Creating trustpoint "_SmartCallHome_ServerCA" and installing certificate...

Trustpoint '_SmartCallHome_ServerCA' is a subordinate CA and holds a non self-si
gned certificate.

Trustpoint CA certificate accepted.
Type help or '?' for a list of available commands.
ciscoasa>
Warning: ASAv platform license state is Unlicensed.
Install ASAv platform license for full functionality.

Status: Running
```

Hyper-V マネージャからのネットワーク アダプタの追加

新しく導入された ASA のネットワーク アダプタは 1 つだけです。さらに 2 つ以上のネットワーク アダプタを追加する必要があります。この例では、内部ネットワーク アダプタを追加します。

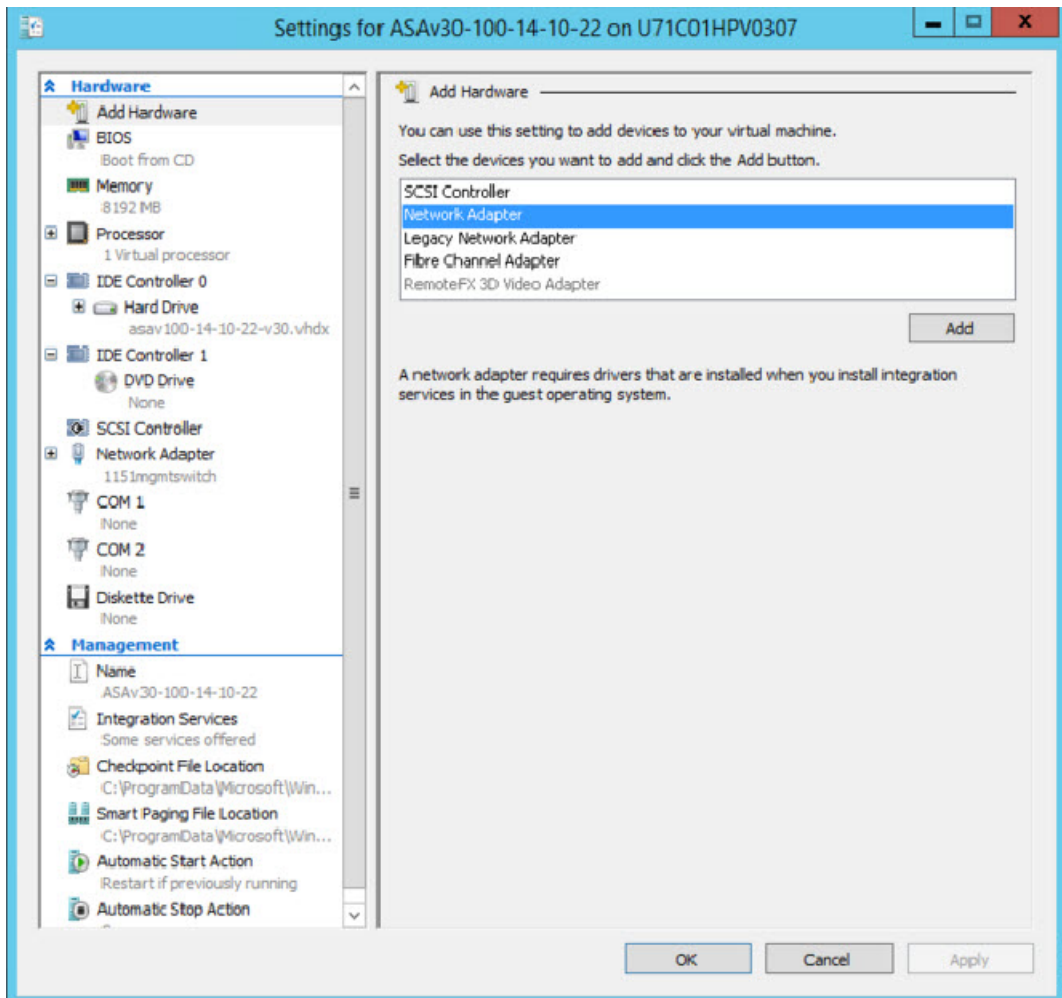
始める前に

- ASA はオフ状態になっている必要があります。

ステップ 1 Hyper-V マネージャの右側にある [Settings] をクリックします。[Settings] ダイアログボックスが開きます。左側の [Hardware] メニューで、[Add Hardware] をクリックし、次に [Network Adapter] をクリックします。

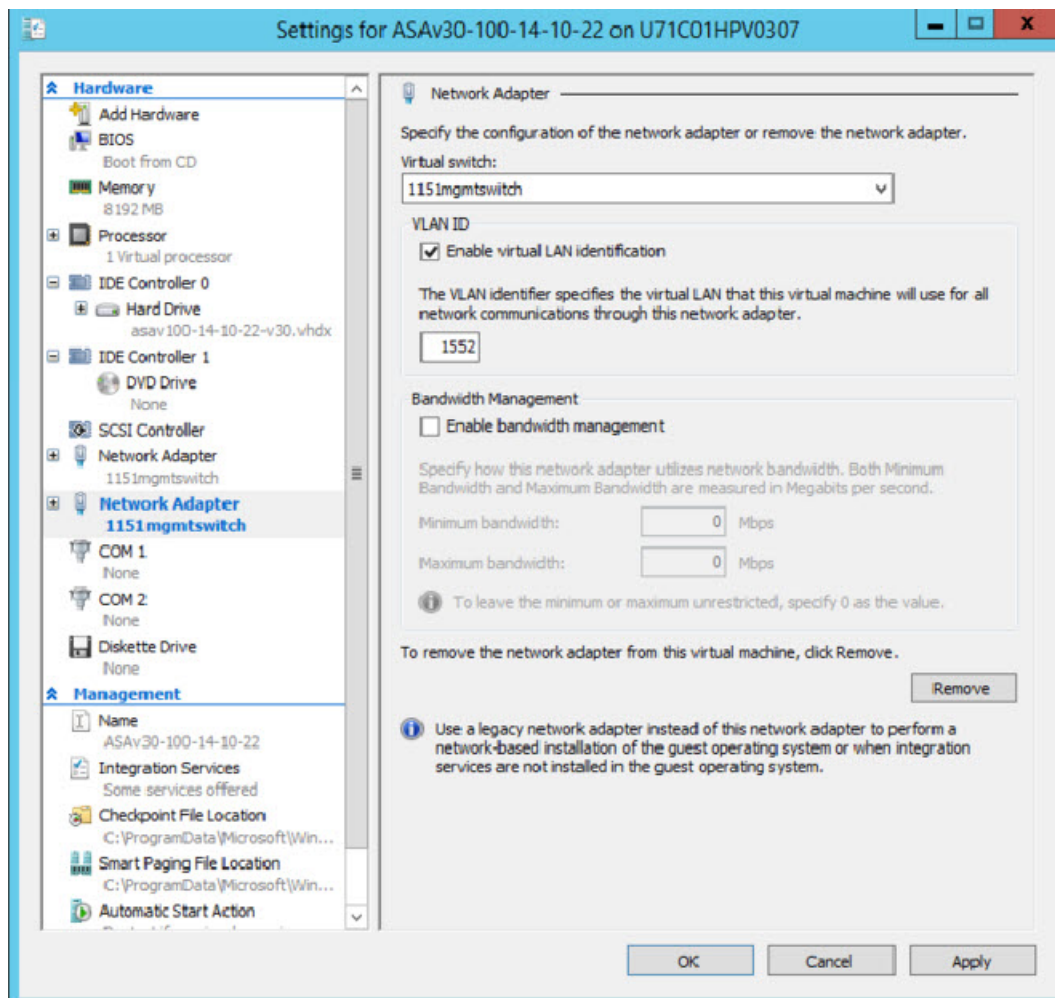
(注) レガシー ネットワーク アダプタを使用しないでください。

図 12: ネットワーク アダプタの追加



ステップ 2 ネットワークアダプタの追加後、仮想スイッチとその他の機能を変更できます。また、必要に応じて VLAN ID を設定できます。

図 13: ネットワーク アダプタ設定の変更



ネットワーク アダプタの名前の変更

Hyper-V では、「Network Adapter」という汎用ネットワーク インターフェイス名が使用されます。このため、ネットワーク インターフェイスがすべて同じ名前であると、紛らわしい場合があります。Hyper-V マネージャを使用して名前を変更することはできません。Windows Powershell コマンドを使用して変更する必要があります。

ステップ 1 Windows Powershell を開きます。

ステップ 2 必要に応じてネットワーク アダプタを変更します。

例 :

```
$NICRENAME= Get-VMNetworkAdapter -VMName 'ASAvVM' -Name "Network Adapter"  
rename-VMNetworkAdapter -VMNetworkAdapter $NICRENAME[0] -newname inside  
rename-VMNetworkAdapter -VMNetworkAdapter $NICRENAME[1] -newname outside
```

MAC アドレス スプーフィング

ASAv がトランスペアレント モードでパケットを渡し、HA アクティブ/スタンバイ フェールオーバーに対応できるように、すべてのインターフェイスの MAC アドレス スプーフィングをオンにする必要があります。Hyper-V マネージャ内で、または Powershell コマンドを使用して、これを実行できます。

Hyper-V マネージャを使用した MAC アドレス スプーフィングの設定

Hyper-V マネージャを使用して、MAC スプーフィングを Hyper-V に設定できます。

ステップ 1 [Server Manager] > [Tools] > [Hyper-V Manager] に移動します。

Hyper-V マネージャが表示されます。

ステップ 2 Hyper-V マネージャの右側の [Settings] をクリックして、設定ダイアログ ボックスを開きます。

ステップ 3 左側の [Hardware] メニューで次の操作をします。

1. [Inside] をクリックして、メニューを展開します。
2. [Advanced Features] をクリックして、MAC アドレス オプションを表示します。
3. [Enable MAC address spoofing] ラジオ ボタンをクリックします。

ステップ 4 外部インターフェイスでも、この手順を繰り返します。

コマンドラインを使用した MAC アドレス スプーフィングの設定

Windows Powershell コマンドラインを使用して、MAC スプーフィングを Hyper-V に設定できます。

ステップ 1 Windows Powershell を開きます。

ステップ 2 MAC アドレス スプーフィングを設定します。

例 :

```
Set-VMNetworkAdapter -VMName $vm_name\  
-ComputerName $computer_name -MacAddressSpoofing On\  
-VMNetworkAdapterName $network_adapter\r"
```

SSH の設定

Hyper-V マネージャの [Virtual Machine Connection] から管理インターフェイスを介して SSH アクセスできるように ASA を設定できます。第 0 日用コンフィギュレーションファイルを使用している場合は、ASA への SSH アクセスを追加できます。詳細については、「[第 0 日のコンフィギュレーションファイルの準備](#)」を参照してください。

ステップ 1 RSA キー ペアが存在することを確認します。

例 :

```
asav# show crypto key mypubkey rsa
```

ステップ 2 RSA キー ペアがない場合は、RSA キー ペアを生成します。

例 :

```
asav(conf t)# crypto key generate rsa modulus 2048
```

```
username test password test123 privilege 15  
aaa authentication ssh console LOCAL  
ssh 10.7.24.0 255.255.255.0 management  
ssh version 2
```

ステップ 3 別の PC から SSH を使用して ASA にアクセスできることを確認します。

